

9/5 自分のペースでいい汗かきつつ秋の味覚を満喫
千歳サーモンマラニック 2020



マラニックは、ピクニックのように景色や地元の味覚を楽しみながら、無理せず自分のペースでマラソンを楽しむスポーツです。今年は新型コロナウイルス感染症対策として、定員を昨年の半分にし、受付時もソーシャルディスタンスの確保を徹底、時間差を設けた分散スタートなどにより密を避けて開催しました。友達同士や家族連れなど約300人の参加者は、各エイドポイントでは、ゆでトウモロコシやソフトクリームを、また、ゴール後にはいくら丼など、地元グルメを楽しんでいました。



9/1 9/2 心を明るく照らす《頑張ろう》のエール
切り絵ランタン COLLECTION



千歳市社会福祉協議会（以下「社協」）敷地内の特設会場で《ちとせ切り絵ランタンコレクション》が開催されました。当イベントは新型コロナウイルス感染症による苦難をみんなで乗り越えようと、社協が企画したものです。参加者は思い思いの色や形の《切り絵ランタン》を作成し、《頑張ろう》のエールを贈りました。夕暮れ時にライトアップされた個性溢れるランタンは、日没とともに夜空に浮かび上がりました。ランタンには、「いつもありがとうございます」など医療従事者への感謝のメッセージが添えられました。



まちのできごと・マンスリーでお知らせします。

9/17 支笏湖温泉商店街の飲食店
山線湖畔驛弁当 販売開始



王子軽便鉄道ミュージアム（山線湖畔驛）にちなんだ《山線湖畔驛弁当》の販売が支笏湖温泉商店街の6つの飲食店ではじまりました。「駅があるなら駅弁だ」という山線プロジェクト実行委員の声をきっかけに、商店街に協力を呼びかけて実現しました。新型コロナウイルスの影響により飲食店のテイクアウト需要が伸びていることも販売を後押ししました。弁当は、支笏湖の特産品である支笏湖チップ（ヒメマス）を使ったお寿司やフライなど全6種類。お弁当をぶらさげて紅葉の支笏湖散策はいかがでしょう。

9/15 長寿と健康をお祝い
敬老の日を前にお祝い金を贈呈



長寿と健康を祝い、満100歳の方に敬老祝金が贈呈されました。花野孟雄さんには、手洗い・消毒の徹底に加え、面会時間を最小限にしたうえで、市長が直接手渡しました。花野さんは市長を待っている間、詩吟で鍛えた歌声を披露するなどご機嫌な様子。笑顔で市長を迎え、お祝い金を受け取りました。同席した息子さんから「ご飯も美味しく、毎日楽しく過ごしています」と花野さんの普段の生活が語られました。笑顔で毎日を楽しむことが、健康の一番の秘訣かもしれません。

9/4 明治安田生命保険相互会社苫小牧支社と
健康増進に関する連携協定



市は、明治安田生命保険相互会社苫小牧支社と《健康増進に関する連携協定》を締結しました。地域のニーズに対応し市民の健康増進や健康的な生活の実現のため「地域の健康づくり」「がん対策」「感染症対策」「企業・経営者の健康増進」の4項目の分野で連携します。同社がこれまで培ってきた知見を活用し、更なる市民サービスの向上に取り組みます。また、同協定にあわせて千歳にゆかりのある全国の社員の皆さんから「私の地元応援募金（41万2,900円）」をいただきました。募金は新型コロナウイルス感染症対策関連の費用にあてられます。

9/2 出店に法被（はっぴ）でお祭り気分
テーマは《お祭りごっこ》



市内8館の児童館でいっせいに《お祭りごっこ》が開催されました。新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策として3つの密を避けるために同じ日での開催です。あんじゅ児童館では、和太鼓の体験が行われた後、おめん屋さんやヨーヨー釣りなどの手作り出店が並び、訪れた親子は売り子さんとお客さんの両方を体験しながらお祭り気分を味わいました。たこ焼き屋さん（写真）では紙で作ったニコリイラスト入りのたこ焼きを「熱いからふーふーしてね」と可愛い売り子さんがお店を切り盛りしていました。

「換毛期」 No.235



人のうごき

《総人口》
98,122人 (-59)
男性 49,846人 (-18)
女性 48,276人 (-41)
《世帯》50,975世帯 (-68)

()内は、前月との比較です。

10-1 現在

広報ちとせからのお願い

市民の皆さんの身近にある楽しい話題・イベントの情報をお寄せください。

広報聴取課 広報係
☎(24)0104 FAX(22)8851

9/26 9/27 始まりよりも、終わった後がきれい
SHIKOTSUKO BLUE CAMP

「永遠の青を感じる1日」をテーマに、環境保全を目的としたイベントが初開催。支笏湖は2019年まで11年間にわたって水質日本一に輝いています。その水質を守ってきた自然環境の美しさや保全活動の大切さを広く伝えることを目的としつつ、《北海道スタイル》を実践した運営のもと実施され、自然環境を守り続けていくことの大切さ、アフターコロナの安全とイベントとの共存など、未来に向けたメッセージを発信するイベントとなりました。



湖畔では、5組のアーティストによるステージが行われ、参加者は支笏湖からの風を受けながら楽曲に聴き入っていました。ステージの外でも、ゴミ分別の啓発活動、各種学習・体験活動やアクティビティなどが行われ、参加者の心には、イベントの楽しい思い出と一緒に環境保全の意識も刻まれたようです。



徹底的にゴミを分別。半月で自然に還るものから永久に還らないものまで約30種類に。



支笏湖の水質日本一の秘密は顕微鏡の中に。小さな世界で何を発見できたのかな。



水辺の生き物たちとの出会いに大人も子どもも感動。感謝してからリリースしました。



自然に抱かれ、波の音を聞きながらのキャンプは普段とは時間の流れ方が違うようです。

9/24 手を挙げて左右確認
幼児の交通安全教室



市は、9月と10月の2か月間、市内の認定こども園や幼稚園の年長児を対象に《交通安全教室》を実施しています。9月24日は、アリス認定こども園の園児30人が参加。交通安全教育指導員が横断歩道の渡り方などをパネルシアターで説明した後、実際に横断歩道を模したマットを床にしき、実技を行いました。園児は信号が青になると、「みぎ、ひだり、みぎ」と安全を確認し、横断歩道を渡りました。

9/26 コロナ時代の子育ての新常态
家庭教育セミナー



今年度初めての家庭教育セミナー「やだ～！無理～！という子はどうしていますか？」を、北ガス文化ホールを会場にコーチングプラス代表 子育てコーチ 石谷 二美枝さんを講師にお迎えし、コロナ禍の子育てで大切なことについて講演を行いました。「今までに経験したことのない有事だからこそ、いつも通りに」「今を大切に」など、心に残るフレーズがたくさん詰まった講話でした。

9/19 埋蔵文化財センターで《縄文まつり》開催
親子で火おこし体験



縄文時代の生活文化を学び、体験するイベント《縄文まつり》が埋蔵文化財センター（長都）で開催されました。火おこし体験のほか縄文土器づくり、勾玉づくりなどが行われ、親子連れなど約70人が縄文時代の技術や知恵に触れました。火おこし体験では、木の棒を回し摩擦熱で火種をつくる《舞盤式》に挑戦。縄文生活の大変さを体感すると同時に現在の文明の利器のありがたみを感じていました。

9/25 支笏湖ビジターセンター
新展望デッキがお目見え



環境省北海道地方環境事務所は支笏湖ビジターセンターに整備した《展望デッキ》のオープニングセレモニーを実施しました。滞在空間の魅力を向上させるため、建物の湖側に出入口を増設し、湖を望むことができる階段状の展望デッキを整備。同事務所の安田 直人所長が「地域の皆さんの憩いの場となり、観光客の皆さんにも親しみをもって利用してほしい」と挨拶し、支笏湖小児童らによるテープカットが行われました。